

2008

business report

株主通信

第12期 決算のご報告

2007.4.1 ➡ 2008.3.31

株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月
期末配当基準日	3月31日
中間配当基準日	9月30日
公告方法	電子公告 (当社ホームページに掲載) [アドレス] http://www.broadmedia.co.jp/ ただしやむを得ない事由により電子公告ができないときは、 日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 [郵便物ご送付先 電話お問い合わせ先] 〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行 証券代行部 ☎ 0120-288-324 (フリーダイヤル)
同 取 次 所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインバスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店



Broadmedia



ブロードメディア株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂8-4-14 青山タワープレイス6F



環境に配慮した「大豆油インキ」
を使用しています。

ブロードメディア株式会社

証券コード：4347

CONTENTS

- 01 ブロードメディア ビジネスモデル
- 02 トップインタビュー
- 05 部門別営業の概況
- 07 トピックス
- 10 連結決算ハイライト
- 11 連結財務諸表(要約)
- 13 個別財務諸表(要約)
- 14 会社データ

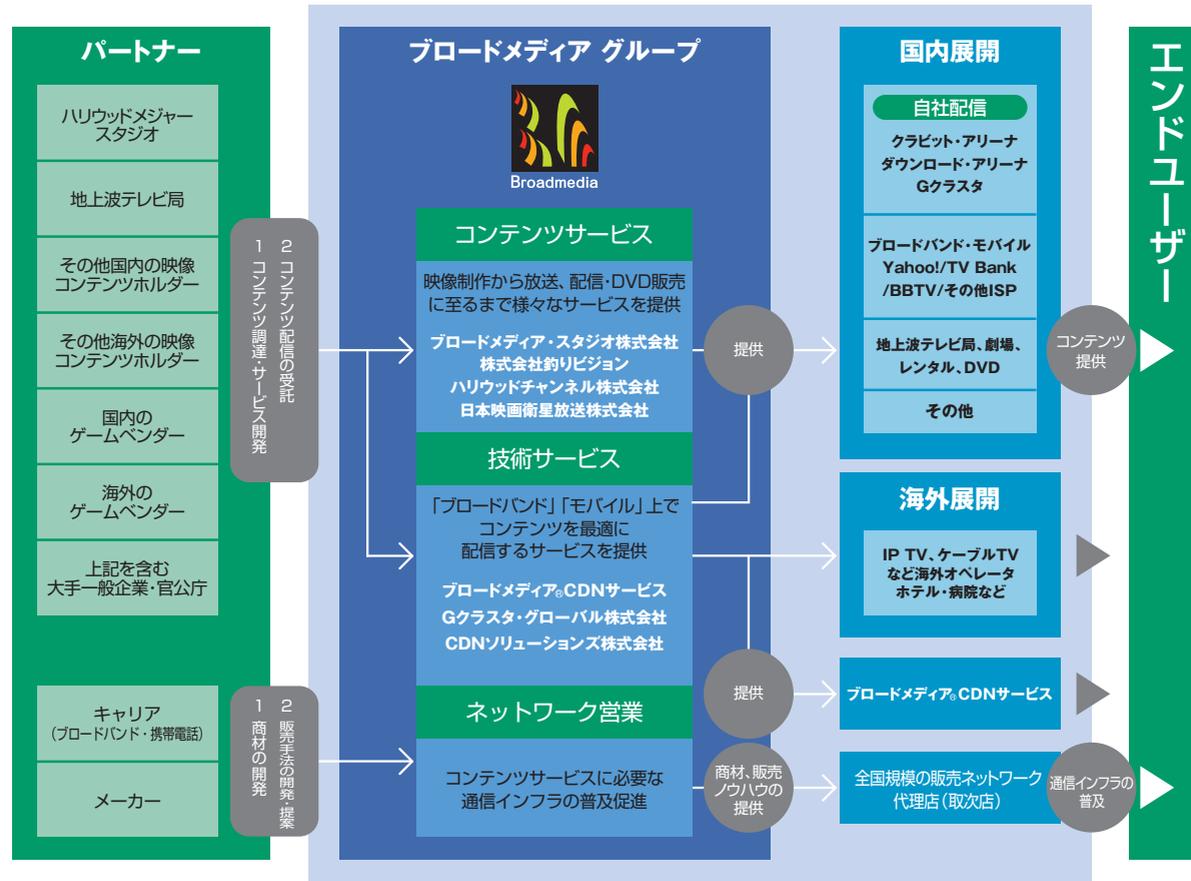
コンテンツサービスのさらなる充実と
技術サービスのスケールアップを目指してまいります。

代表取締役社長 橋本 太郎

強み

「技術プラットフォームを持つコンテンツ流通事業者」として、「コンテンツの調達能力」と、「それを安定的にかつ高品質で配信する技術」の双方を併せ持つ企業は、業界内でも稀有な存在であり、それが強みになっています。

ブロードメディアグループのビジネスモデル概要



Q1 当期(2008年3月期)を振り返り、事業展開における取り組み課題とトピックについてお聞かせください。

A) まず、技術サービス部門で育ててきたGクラスター事業を、2008年1月にGクラスター・グローバル株式会社(以下、GCG社)として当社本体から分社化し、独立的に成長していく体制を整えました。その後の増資により、GCG社に対する当社の持分比率は、当期末時点で55%となりましたが、そこに至るまでに相当な時間をかけて行ったことは、今までに投入した時間・労力・資金を勘案し、今後当社の株主利益を損なわない形でどのような事業育成が可能かという検討と、Gクラスター事業の北米・欧州展開における可能性の調査の為でした。分社化と増資及び北米への展開は、そうした検討と調査の結果です。

一方で当期は、コンテンツサービス部門において、ハリウッド映画等のオールライツ(全権利)を取得し、映画配給事業を新たに開始した期でもありました。この事業は子会社のブロードメディア・スタジオ株式会社が過去に行っていた事業ですが、経営再建を遂げるまでの過程で中断していたものです。

また、前期において赤字を計上したネットワーク営業部門は、回線販売の堅調な推移と携帯電話サービスの寄与により、当期は黒字となりました。

Q2 当期の業績についての解説と、次期(2009年3月期)の見通しをお聞かせください。

A) 当期の連結売上高は138億51百万円(前年比29.8%増)、連結営業利益は2億96百万円(前年比72.4%減)、連結経常利益は2億40百万円(前年比77.7%減)となり、最終的には7億99百万円の連結当期純損失を計上しました。

コンテンツサービス部門が売上高の6割を占め、10億円を超える営業利益を計上しつつも、技術サービス部門(主にGクラスタ事業)による損失が、全体の利益を減らしている状況です。冒頭で述べた通り当社は、Gクラスタ事業を育成していくことをミッションの1つとしており、GCG社の独立分社化についても、事業の進捗に合わせて行ったものです。Gクラスタ事業がグローバルに通用するサービスとしての手応えを得て、当期中にそれを実現する体制を構築できたと考えております。なお、次期においてはGCG社の独立化がさらに進むことにより、同社が当社連結グループから離脱することを予想しています。当面赤字が先行する同社が連結グループから離脱すると、当社の次期の連結業績は改善されます。

連結経常利益については2億40百万円(前年同期比77.7%減)となり、最終的には7億99百万円の連結当期純損失を計上しました。当期は、GCG社における第三者割当増資実施の結果、みなし売却益として約8億円の特別利益を計上しましたが、投資有価証券評価に関して保守的な判断をしたことにより、約19億円の投資有価証券評価損を特別損失として計上しました。当期純損失となったことについては、重く受け止めておりますが、次期以降にネガティブな要素を持ち越さないための保守的な判断の結果として、ご理解いただきたく存じます。

次期の連結業績(通期)については、現在のところ売上高140億円、営業利益6億50百万円、経常利益2億50百万円、当期純利益8億円を見込んでいます。コンテンツサービス部門は引き続き安定的に推移していくと予想しており、当期において先行費用が発生したCDN事業の業績の改善が期待されるものの、ネットワーク営

業部門については、減収減益を予想しています。また、次期業績を大きく左右する要素として、GCG社が、どのタイミングで、どれくらいの規模で連結から離脱するかという点が挙げられます。つまり、当社の連結グループから離脱する場合、タイミングが早ければ早いほど、また、当社の持分比率が下がるほど、当社の業績は短期的に改善されるということです。

Q3 SBIホールディングス株式会社との連携強化と第三者割当増資について伺います。

A) 当社は、SBIグループとの戦略的な提携関係の強化を目的として、2008年5月16日にSBIホールディングス株式会社を割当先とした約35億円の第三者割当による新株式を発行しました。これによりSBIホールディングス株式会社は、当社株式の39.7%を保有する筆頭株主となりました。

SBIグループは、インターネットの普及とともに成長してきた日本を代表する金融コングロマリットです。わが国における総合金融事業は、今後あらゆる情報発信を金融資産の拡大に結び付けていく「金融事業のメディア化」、すなわち業務の多くの部分でメディア的な活動を強めていくと予想されます。これまで「ブロードバンド」「モバイル」という切り口によってメディア関連事業を推進してきた当社にとって、SBIグループは、より緊密な協業体制を構築すべき存在です。

当社はこれまで、SBIグループの情報発信サイト「SBIチャンネル」におけるコンテンツ制作・配信サービスをはじめ、複数の領域での協業を行ってきましたが、今後は当社が有する技術サービス面の強みをさらに発揮し、2011年に予定されている情報通信法(仮称)施行以降の動向も視野に入れ、同グループとの戦略的な提携関係を深めてまいります。

Q4 中長期的な成長に向けた戦略についてお聞かせください。

A) 当社の新たな事業展開の1つである「ナショナル ジオグラフィック」Webサイト(<http://www.nationalgeographic.co.jp/>)がオープンしました。これは、米国ナショナル ジオグラフィック協会の事業会社であるナショナル ジオグラフィック・ベンチャー社との提携事業であり、環境・動物・自然・文化等の総合サイト「ナショナル ジオグラフィック」の日本語版です。世界一流の写真家や映像作家が捉えた美しい写真や映像等、豊富でクオリティの高いコンテンツを無料でお届けします。

これまでの当社は、クオリティの高いものを有料で提供することにこだわりを持ってきましたが、この「ナショナル ジオグラフィック」は、圧倒的な量と優れた質を持つコンテンツを、子供から高齢者まで誰でも楽しめるように無料で提供いたします。これは大きな戦略の転換であり、広告収入やスポンサー収入に依拠する新たなビジネスモデルに挑戦していくこととなります。

今後、こうした無料でコンテンツを提供する事業は当社本体で追求し、従来築き上げてきた有料で提供するコンテンツビジネスについては、子会社であるブロードメディア・スタジオ株式会社、株式会社釣りビジョン、ハリウッドチャンネル株式会社を中心に展開してまいります。

一方、当社は、2011年に予定されている情報通信法(仮称)施行以降のメディアをめぐる環境の変化に対応していかなければなりません。その意味では、特にコンテンツ配信の分野で、これまで以上に「モバイル&ブロードバンド」を1つのキーワードとして準備を進めていこうと考えています。今後この分野に強みを持つ技術系企業への出資や業務提携を通じて、新しい技術に基づくコンテンツサービスを開発し、さらには、その機能を実装したハードウェアを当社のネットワーク営業部門が販売するといった構想を練っています。

次期は、こうした中長期的な成長ビジョンを実現する為に、コンテンツ配信のリーディングカンパニーを目指して努力していく

1年間となります。

Q5 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A) 先に述べました通り、当期は最終損失を計上する決算内容となりましたが、当社は、世の中にない新しい価値を創出・育成していくベンチャー企業であり、その過程で生じる業績のぶれも見込みながら、株主の皆様に対する安定的な配当の実施を基本方針としています。今回の期末配当についても、以上の方針に基づき、前年同様に1株当たり2円50銭を実施させていただきました。年間配当額については、中間配当の1株当たり2円50銭と合わせて、前年同様に1株当たり5円となりました。

ここ数年、当社は「第2の創業期」というテーマのもとに業態転換に努めてきましたが、その最初のステージでコンテンツサービスの充実を図ってまいりました。そして、これからのステージで当社は、技術サービス領域でのスケールアップを目指してまいります。

現在当社は、CDNに代表されるような、コンテンツを一番良い形でユーザーに届けるデリバリー技術に着目しています。今後このデリバリー技術における上流及び下流の領域は、ますます重要性が増していきます。これからの当社によるコンテンツ配信サービスの拡がりにご注目いただくとともに、コンテンツサービスの先行から技術サービスの強化にシフトしていく展開にご期待ください。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

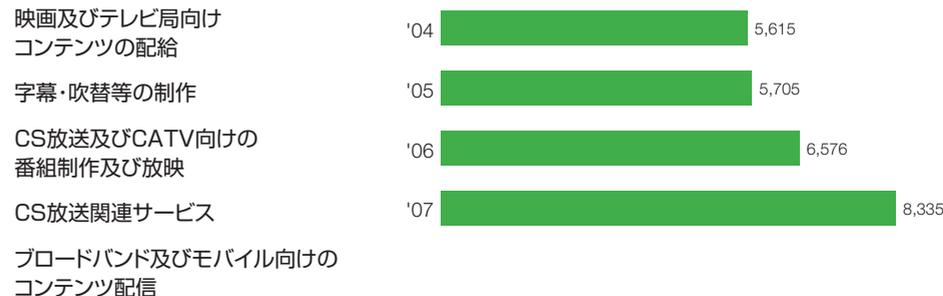


世の中にない新しい価値を 創出・育成してまいります。

部門	主要な商品・製品及びサービス	売上高の推移 (単位:百万円)	売上高	営業の概況	売上構成比
----	----------------	-----------------	-----	-------	-------

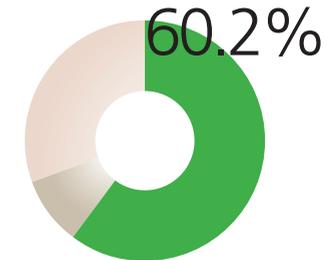
コンテンツサービス

- 映像サービス
プロダクション事業/
ディストリビューション事業/
映画配給事業/ブロードバンド配信事業
- 放送サービス
CS放送サービス
委託放送事業「釣りビジョン」
- モバイルサービス
ハリウッドチャンネル/
速報!ハリウッド★スクープ/
海外ドラマ★DX/アバンギャルド・グラビア
- その他サービス
オリジナルゲーム開発



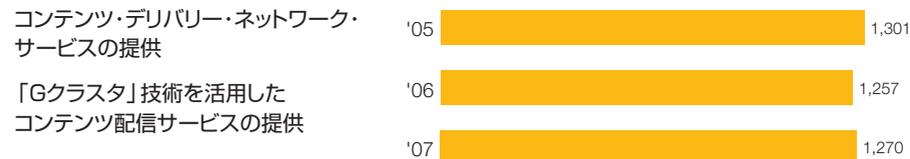
8,335百万円
(前年比26.8%増)

売上高は、前連結会計年度中に連結子会社となった、株式会社釣りビジョン、ブロードメディア・スタジオ株式会社及びその子会社であるハリウッドチャンネル株式会社の売上が加わったこと等により、前連結会計年度と比べ26.8%増加し8,335百万円(前連結会計年度は6,576百万円)となりました。しかしながら、営業利益は、モバイルサービスの黒字化や、株式会社釣りビジョンの利益への貢献及び映像サービスにおけるディストリビューション事業が好調に推移したこと等があったものの、CS放送サービスの会員数の減少及び映像サービスにおける映画興行収入が伸び悩んだこと等により、前連結会計年度と比べ39.6%減少し、1,042百万円(前連結会計年度は1,727百万円)に留まりました。



技術サービス

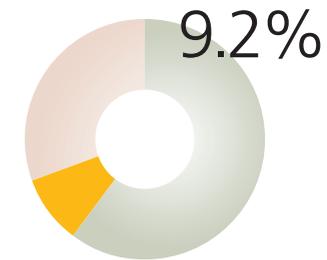
- ゲームサービス
Gクラスタサービス/
ダウンロードゲームサービス
- CDNサービス



※'04年度における同部門の売上高はありません。

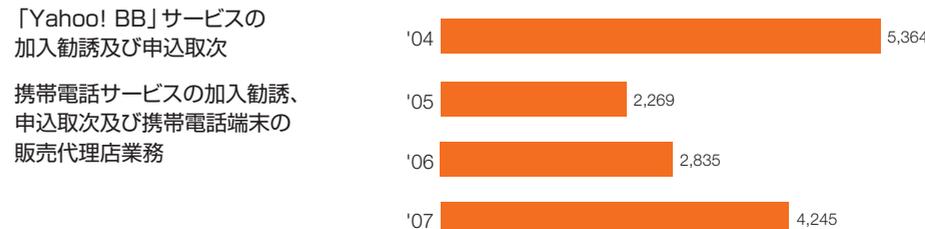
1,270百万円
(前年比1.1%増)

売上高は、CDNサービスにおいて、連結子会社であるCDNソリューションズ株式会社の売上が減少したものの、韓国シーディーネットワークス社との提携に伴う売上が順調に推移したこと等により、前連結会計年度と比べ1.1%増加し、1,270百万円(前連結会計年度は1,257百万円)となりました。しかしながら、CDNサービスにおいて大手顧客に対応するために大規模な回線の先行費用が発生したこと、及びGクラスタサービスの損失や分社化に伴う追加的な立ち上げ費用等により、営業損失826百万円(前連結会計年度は566百万円の営業損失)を計上いたしました。



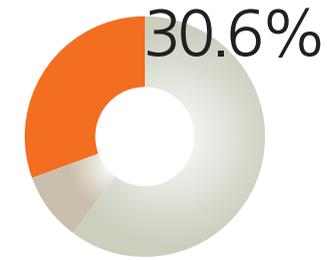
ネットワーク営業

- ブロードバンド回線販売
- 携帯電話サービスの取扱い



4,245百万円
(前年比49.7%増)

売上高は、「Yahoo! BB」の回線販売が堅調に推移したことに加え、前連結会計年度中から開始した携帯電話サービスの取扱いが通年で寄与したこと等により、前連結会計年度と比べ49.7%増加し、4,245百万円(前連結会計年度は2,835百万円)となりました。営業利益は、80百万円(前連結会計年度は83百万円の営業損失)となりました。



● content services
コンテンツサービス

2008年度は大小7作品以上の 作品を劇場公開予定

当社グループでオールライツを取得している「ミスト」や「REC / レック」、「BUG / バグ」などに続き、2008年度中に自社制作作品を含め大小7作品の劇場公開を予定しております。

今後も、作品のオールライツ取得を促進し、国内外のコンテンツ事業者との連携を強化することで、ユーザーと直結する様々なウィンドウに作品を提供し、コンテンツサービスの強化を図ってまいります。

2008年度 劇場公開作品

5月10日	ミスト
6月14日	REC / レック
7月5日 (予定)	BUG / バグ
夏期 (予定)	帰らない日々 (原題: Reservation Road)
秋期 (予定)	中華学校の子どもたち (自社作品)
秋期 (予定)	情人結 (原題)
秋～冬期 (予定)	ブーリン家の姉妹 (原題: The Other Boleyn Girl)



© 2007 The Weinstein Company. All rights reserved.
「ミスト」



© 2007 CASTELAO PRODUCTION, S. A.
「REC / レック」

● content services
コンテンツサービス

「ナショナル ジオグラフィック」 日本語版Webサイト開設

2008年5月、ナショナル ジオグラフィックの日本語版Webサイトをオープンしました。ナショナル ジオグラフィックは「地理学の知識の向上と普及」を目的に、1888年米国ワシントンD.C.に設立され、120年の歴史を通して、世界中の科学・教育・調査・探検プロジェクトを支援し、他では見ることでできないリアルな映像や記事、事実の正確性などにおいて、世界各国で信頼を集めております。

ナショナル ジオグラフィックの掲げる「Inspiring People to Care About the Planet」という理念に則り、多くの人々にかげがえのない地球に関心を持っていただく為の足掛かりとなるサイトを目指していきたく考えております。

「ナショナル ジオグラフィック」の特徴

- ・豊富でクオリティの高いコンテンツを、無料で提供
- ・世界一流の写真家や映像作家による美しい写真や映像
- ・温暖化などの環境問題、豊かな自然に生息する動物たち、世界各国の文化情報
- ・世界中の記者から報道される探検プロジェクト、自然界における新たな発見等の即時性の高い最新ニュース



● technology services
技術サービス

技術サービスの強化について

「ブロードメディア®CDN」をはじめ、ブロードバンド環境における最良なコンテンツ配信サービスを提供してまいります。

グローバル
対応

「ブロードメディア®CDN」 powered by CDNNetworks

当社は、2006年3月から韓国シーディーネットワークス社と提携し、日本国内でブロードバンド時代の大規模安定配信を目的としたCDNサービス「ブロードメディア®CDN」の提供を行ってきました。この度、同社が確立した全世界の配信拠点を活用し「ブロードメディア®CDN」 powered by CDNNetworksのグローバル配信を2008年4月より開始しました。今後、北米、欧州、アジア等海外向けの配信を強化し、グローバル企業のニーズに対応していきます。

「ブロードメディア®CDN」 powered by CDNNetworksの海外向け配信について

【特徴】

- ・海外向けWebサイトを持つ企業の増加に伴い、海外向けの配信をサポート
- ・特に、中国各地を含めたアジア地域への配信に強み

モバイル
対応

「ブロードメディア®CDN mobile movie」

当社は、株式会社アイ・ブロードキャストと共同で、携帯電話向け動画配信ASPサービス「ブロードメディア®CDN mobile movie」の提供を開始しました。

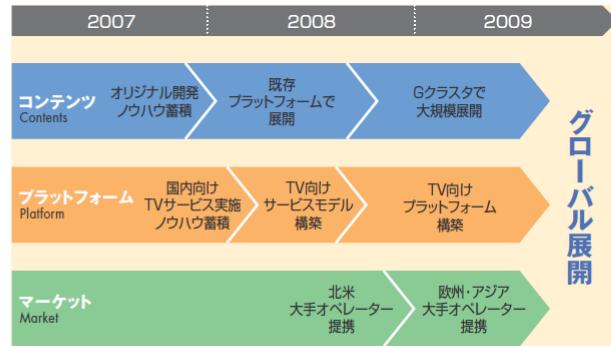
同サービスでは、多様化する携帯電話向け動画コンテンツにおいて、音楽プロモーションビデオ、映画予告編、動画投稿サイトの動画等、様々なファイル形式の動画ファイルに対応し、また、携帯電話のキャリアごと、機種ごとに動画ファイルをエンコードしなければならない手間とコストを削減します。PC向け等に作成された動画コンテンツも各種携帯端末向けに自動変換し、最適な配信が可能となります。また、2008年9月よりフラッシュ対応サービスの開始を予定しております。

「ブロードメディア®CDN mobile movie」の提供について

【特徴】

- ・3キャリアに対応 (ソフトバンク、ドコモ、au)
- ・1つの動画を用意するだけで、動画対応機種の95%以上に対応し、サイズや容量を自動で最適化
- ・様々な動画ファイル形式に対応

● technology services 技術サービス
Gクラスタ・グローバル社の今後の事業展開について



当社グループでは、ゲームサービスにおいてIPTVやCATV等に対する「テレビ向けサービス」の提供を基本方針とすることを決定し、Gクラスタ・グローバル社及びGクラスタ・アメリカ社を設立するなど、事業推進体制の再構築を行いました。

今後は、Gクラスタ・グローバル社の独立化を推進し、当社の健全な財務体質が維持される範囲で同社を育成してまいります。

Gクラスタ・グローバル社の事業展開

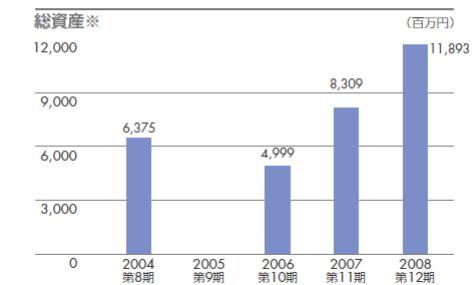
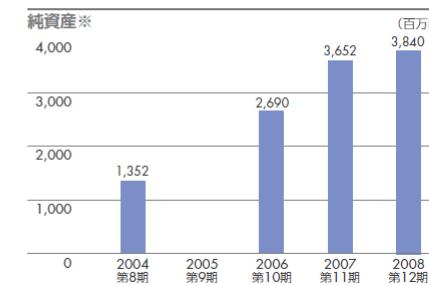
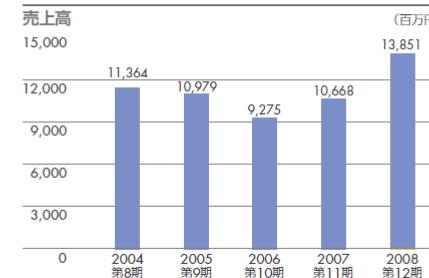
- ・全世界の市場へ向けてサービス展開
- ・国内外の市場に対応する「テレビ向けサービス」と、それを支えるプラットフォームの構築
- ・テレビ向けサービスに合ったコンテンツの調達、オリジナルコンテンツの開発

Gクラスタ・グローバル社は2008年4月、インターネットで本格的エクササイズが無料で楽しめる健康支援サービス「みんなのフィットネス」をオープンいたしました。アメリカで人気のエクササイズプログラムを日本語化し、Gクラスタ技術を用いて、ユーザーの登録する基礎体力やデータを元に、個人の体力レベルや目標に合わせた500以上のプログラムを提供しております。

また、マイページ機能でエクササイズ実施記録・消費カロリーのグラフ表示や、エクササイズをしなくても楽しめるコミュニティ機能、健康に関する情報コンテンツなど、多くの方々へ健康と理想のカラダづくりをサポートしていきます。

エクササイズ継続を支援する各種機能

- ・マイページ機能
スケジュール管理機能、目標設定機能等
- ・コミュニティ機能
ランキング機能や、全登録会員の消費カロリー合計が表示される「みんなで挑戦！脂肪燃焼計画」等
- ・エクササイズ・健康に関する情報コンテンツ
毎週更新「みんなのフィットネス情報局」等
※カロリー診断、レシピコンテンツ等(7月提供予定)



※第9期連結会計年度は、連結子会社であったビー・ビー・ケープル株式会社の全株式を譲渡したことにより、連結子会社がなくなった為、連結貸借対照表を作成しておりません。

連結貸借対照表

(単位：千円)

	当連結会計年度末 2008年3月31日現在	前連結会計年度末 2007年3月31日現在
[資産の部]		
POINT 1 流動資産	7,236,146	5,255,675
POINT 2 固定資産	4,657,144	3,053,867
有形固定資産	263,209	268,877
無形固定資産	1,053,087	1,217,559
投資その他の資産	3,340,847	1,567,431
資産合計	11,893,290	8,309,543
[負債の部]		
POINT 3 流動負債	7,901,449	4,443,998
固定負債	150,873	212,555
負債合計	8,052,323	4,656,554
[純資産の部]		
株主資本	2,145,715	3,120,749
資本金	655,035	654,662
資本剰余金	282,071	281,698
利益剰余金	1,208,898	2,184,677
自己株式	△289	△289
評価・換算差額等	3,322	2,252
少数株主持分	1,691,929	529,986
純資産合計	3,840,966	3,652,988
負債純資産合計	11,893,290	8,309,543

POINT

- 1 流動資産**
連結子会社であるブロードメディア・スタジオ株式会社におけるコンテンツ取得等により番組勘定が増加したこと、また、連結子会社であるGクラスタ・グローバル株式会社の第三者割当増資等によって現金及び預金が増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ37.7%増加いたしました。
- 2 固定資産**
2008年6月に株式会社ゲームオンの株式を取得した為、投資有価証券が増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ52.5%増加いたしました。
- 3 流動負債**
短期借入金が増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ77.8%増加いたしました。

連結損益計算書

(単位：千円)

	当連結会計年度 2007年4月1日～ 2008年3月31日	前連結会計年度 2006年4月1日～ 2007年3月31日
POINT 4 売上高	13,851,228	10,668,574
売上原価	9,157,902	6,078,653
売上総利益	4,693,326	4,589,920
販売費及び一般管理費	4,396,613	3,512,994
POINT 5 営業利益	296,713	1,076,926
営業外収益	124,857	122,618
営業外費用	181,378	122,169
POINT 6 経常利益	240,191	1,077,376
特別利益	770,661	32,654
特別損失	1,886,270	100,272
税金等調整前当期純利益又は純損失(△)	△875,417	1,009,758
法人税、住民税及び事業税	215,488	218,155
法人税等調整額	△223,772	113,459
少数株主利益又は損失(△)	△67,406	47,664
POINT 7 当期純利益又は純損失(△)	△799,726	630,479

POINT

- 4 売上高**
コンテンツサービス部門において、前連結会計年度中に連結グループに加入した子会社3社の売上が加わったこと、また、ネットワーク営業部門の売上が増加したこと等により、前連結会計年度に比べ29.8%増加いたしました。
- 5 営業利益**
ネットワーク営業部門が黒字となったものの、コンテンツサービス部門における劇場公開映画の興行収入が伸び悩んだこと、また、技術サービス部門においてGクラスタサービスが引き続き損失を計上したこと等により、前連結会計年度に比べ72.4%減少いたしました。
- 6 経常利益**
営業利益の減少に加え、支払い利息が増加したこと等により、前連結会計年度に比べ77.7%減少いたしました。
- 7 当期純利益又は純損失**
Gクラスタ・グローバル株式会社の第三者割当増資の結果、持分変動益(みなし売却益)770百万円を計上しましたが、一方で、投資有価証券評価損等、1,886百万円の特別損失を計上したこと等により、当連結会計年度においては当期純損失799百万円を計上いたしました。

連結財務諸表(要約)

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当連結会計年度 2007年4月1日～ 2008年3月31日	前連結会計年度 2006年4月1日～ 2007年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△355,020	△390,596
POINT 8 投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,796,304	△2,541,090
POINT 9 財務活動によるキャッシュ・フロー	5,210,441	1,573,281
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,000	2,403
現金及び現金同等物の増減額	1,061,116	△1,356,002
連結追加に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	9,328
現金及び現金同等物の期首残高	914,771	2,261,445
現金及び現金同等物の期末残高	1,975,888	914,771

POINT

- 8 投資活動によるキャッシュ・フロー**
株式会社ゲームオン等の投資有価証券を取得する為、3,405百万円支出しております。
- 9 財務活動によるキャッシュ・フロー**
Gクラスタ・グローバル株式会社の第三者割当増資等による新株発行に伴う収入が2,000百万円ありました。また、投資有価証券の取得等に充当する為、3,400百万円の短期借入を実施しております。

連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(2007年4月1日～2008年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2007年3月31日残高	654,662	281,698	2,184,677	△289	3,120,749	419	1,833	2,252	529,986	3,652,988
連結会計年度中の変動額										
新株予約権の行使	372	372	—	—	745	—	—	—	—	745
剰余金の配当	—	—	△176,052	—	△176,052	—	—	—	—	△176,052
当期純損失	—	—	△799,726	—	△799,726	—	—	—	—	△799,726
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△763	1,833	1,070	1,161,942	1,163,012
連結会計年度中の変動額合計	372	372	△975,779	—	△975,033	△763	1,833	1,070	1,161,942	187,978
2008年3月31日残高	655,035	282,071	1,208,898	△289	2,145,715	△344	3,666	3,322	1,691,929	3,840,966

個別財務諸表(要約)

会社データ

(2008年3月31日現在)

個別貸借対照表

(単位：千円)

	当事業年度末 2008年3月31日現在	前事業年度末 2007年3月31日現在
[資産の部]		
流動資産	2,524,136	1,820,669
固定資産	6,808,857	4,947,718
資産合計	9,332,993	6,768,388
[負債の部]		
流動負債	8,011,111	3,737,232
固定負債	59,675	65,042
負債合計	8,070,787	3,802,275
[純資産の部]		
株主資本	1,262,206	2,966,112
資本金	655,035	654,662
資本剰余金	282,071	281,698
利益剰余金	325,389	2,030,041
自己株式	△289	△289
純資産合計	1,262,206	2,966,112
負債純資産合計	9,332,993	6,768,388

個別損益計算書

(単位：千円)

	当事業年度 2007年4月1日～ 2008年3月31日	前事業年度 2006年4月1日～ 2007年3月31日
売上高	8,011,538	7,574,322
売上原価	5,228,913	4,271,165
売上総利益	2,782,624	3,303,156
販売費及び一般管理費	2,274,944	2,459,548
営業利益	507,680	843,608
営業外収益	40,494	14,562
営業外費用	144,260	38,923
経常利益	403,914	819,246
特別損失	1,810,411	108,383
税引前当期純利益又は純損失(△)	△1,406,497	710,863
法人税、住民税及び事業税	207,191	203,638
法人税等調整額	△85,088	102,578
当期純利益又は純損失(△)	△1,528,599	404,646

会社概要

社名	ブロードメディア株式会社 (旧クラブビット株式会社) ※2007年10月1日付で商号変更を行いました。
英文社名	Broadmedia Corporation
設立	1996年9月5日
資本金	655,035千円 ※2008年5月16日付の増資の結果、資本金は2,416,631千円となりました。
従業員	84名
インターネットホームページ	http://www.broadmedia.co.jp/

取締役及び監査役(2008年6月20日現在)

代表取締役社長	橋本 太郎
取締役	加納 彰
取締役	久保 利人
取締役	中村 大伸
取締役	波田 一夫
常勤監査役	浦沢 武士
監査役	土橋 康成
監査役	堀 勇志
監査役	小林 樹

※ 浦沢武士、堀勇志及び小林樹は、「会社法」第2条第16号に定める社外監査役であります。

株式の状況

発行可能株式総数	128,000,000株
発行済株式の総数	35,212,153株
株主数	5,319名

※ 2008年5月16日付の増資の結果、発行済株式の総数は58,391,053株となりました。

所有者別株式分布



大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
SBBM株式会社	16,200	46.01
ソフトバンク・ブロードメディア株式会社	5,684	16.14
ブロードメディア総研株式会社	1,200	3.41

主な子会社



ブロードメディア・スタジオ株式会社
<http://www.bmstd.com/>

外国映画及び外国テレビシリーズのテレビ放映権の販売、日本語版制作(字幕・吹替)、DVDビデオの権利仕入・発売・プロモーション、劇場配給、映画宣伝等をしております。

設立 2000年8月
所在地 東京都中央区



株式会社釣りビジョン
<http://www.fishing-v.co.jp/>

CSデジタル衛星放送、ケーブルテレビ局における「釣りビジョン」の放送・配信、番組の制作及び販売をしております。

設立 1998年3月
所在地 東京都新宿区



CDNソリューションズ株式会社
<http://www.cdn-sol.co.jp/>

日本における「アカマイ」の中心的な販売代理店として活動するとともに、コンテンツ配信及びアプリケーション高速化サービスをお客様のニーズや環境に合わせて最適な形でご提供しております。

設立 2001年4月
所在地 東京都港区



ハリウッドチャンネル株式会社
<http://www.hollywood-ch.com/>

携帯電話向け映画情報提供。映画情報やハリウッドの最新ニュースを配信しております。

また、待ち受け画像や着メロだけでなく、海外ドラマやアジア情報など、ハリウッドチャンネル独自のコンテンツも数多く掲載しております。

設立 2003年4月
所在地 東京都中央区